

24年合格目標
短答対策講義ガイダンス
財務会計論(計算)



024-6202-1058-19

はじめに

○本講義の目的と内容

- ・過去問題集の難易度「中」を中心としたアウトプット演習により、本試験で難易度「中」の問題を正答する力を養うことを主目的としています。
- ・テキスト及び過去問集に掲載されている論点のうち、重要性の高い論点を扱う予定です。
※出題可能性の低いものや難易度「易」しかないものは除いています。
詳細は学習進度表を参照ください。
- ・論点ごとに①出題内容の分析、②過去問演習及び解説、③必要に応じ知識のインプットや過去問以外の問題演習を行います。
- ・演習及び解説を行う過去問は難易度「中」が中心ですが、「易」及び「難」も選定します。
何らかの理由で解説が必要と講師が判断した問題ですので、選定された問題はすべて解いてみることをおすすめします。なお、選定問題は各回のレジュメに掲載します。
- ・知識の整理を主目的として、過去問以外の問題を配付することもあります。こちらもぜひ解いてみてください。
- ・Webでは問題毎にチャプターを分けて解説をアップする予定です。

○想定受講者

- ・難易度「易」の問題や、答練頻出パターンの問題は正答できるが、「中～難」の応用的な問題が苦手な受講生はぜひ本講義の演習を通して応用的な問題を解く力をつけてください。
- ・難易度「易」の典型的なパターンの問題に自信がない受講生は、Web論点別講義受講し、例題やトレーニング演習を通して「易」の問題を正答する力をまず身に着けましょう。

本試験の出題傾向と対策, 学習法

1 2016年以降の合格水準, 平均得点等データ

年度	回	合格基準	合格率	願書提出	答案提出	合格数	総合	財務	管理	監査	企業
2016	I	67%	15.8%	7,030	5,479	863	47.7%	49.9%	45.9%	46.4%	47.4%
	II	66%	13.5%	7,968	4,740	638	46.0%	43.8%	48.0%	48.4%	45.9%
2017	I	71%	19.8%	7,818	6,045	1,194	51.6%	44.1%	51.1%	54.7%	60.7%
	II	64%	9.7%	8,214	4,916	475	43.7%	33.2%	47.4%	50.4%	52.4%
2018	I	70%	16.6%	8,373	6,569	1,090	49.7%	45.0%	49.4%	59.4%	50.6%
	II	64%	18.2%	8,793	5,346	975	45.9%	40.4%	45.8%	53.6%	48.9%
2019	I	63%	16.6%	8,515	6,610	1,097	44.2%	38.1%	44.1%	54.3%	46.9%
	II	63%	12.7%	9,531	5,604	709	42.6%	43.0%	37.4%	42.9%	46.4%
2020	I	57%	15.7%	9,393	7,245	1,139	38.9%	33.8%	34.5%	48.2%	44.2%
	II	64%	12.9%	9,383	5,616	722	46.1%	43.7%	46.0%	52.2%	43.5%
2021		62%	21.6%	14,192	9,524	2,060	47.3%	47.0%	40.9%	52.3%	47.8%
2022	I	68%	12.1%	12,719	9,949	1,199	47.5%	44.1%	47.1%	53.9%	46.1%
	II	73%	7.8%	14,958	9,870	780	47.5%	46.5%	48.7%	52.2%	43.4%
2023	I	71%	10.4%	14,550	11,401	1,182	46.4%	49.7%	40.3%	53.4%	39.6%
	II			13,794							

※合格率は「合格数÷答案提出数」で算出

※2023年第Ⅱ回は作成時点で結果未公表

【合格基準】

- ・総点数の70%を基準として審査会が相当と認めた得点比率
- ・ただし1科目につきその満点の40%を満たさず, かつ原則として答案提出者の下位から遡って33%の人数に当たる者との得点比率に満たない者は, 不合格とできる(足切り)

【コメント】

- ・財務会計論は平均点が各回ほぼ3~4位であり, 得点を取りにくい科目である。
- ・2022年頃から受験者が大幅に増加しているにも関わらず, 合格者数は同水準のままであるため合格率が低下し合格基準は70%付近まで上昇し, 合格率が低くなっている。
- ・合格基準が上がるほど, 各問当たりの配点(個別8点)及び, 合計点数(200点満点)が他の科目と比べて高い財務会計論の出来が合否に大きく影響する。
- ・やはり, 財務を制する者は短答を制すると言える。

2 本試験難易度と目標点（直近10回分）

難易度	2018年第Ⅱ回	2019年第Ⅰ回	2019年第Ⅱ回	2020年第Ⅰ回	2020年第Ⅱ回
個別・A(易)	6 問	7 問	6 問	5 問	8 問
個別・B(中)	3 問	1 問	5 問	6 問	3 問
個別・C(難)	4 問	3 問	2 問	2 問	2 問
総合・A(易)	4 問	2 問	4 問	1 問	2 問
総合・B(中)	2 問	2 問	1 問	3 問	0 問
総合・C(難)	0 問	2 問	1 問	2 問	4 問
目標点	77点／128点 (60.1%)	69点／112点 (61.6%)	82点／128点 (64.0%)	72点／128点 (56.3%)	80点／128点 (62.5%)
難易度	2021年	2022年第Ⅰ回	2022年第Ⅱ回	2023年第Ⅰ回	2023年第Ⅱ回
個別・A(易)	6 問	7 問	8 問	7 問	5 問
個別・B(中)	2 問	4 問	2 問	2 問	5 問
個別・C(難)	4 問	2 問	3 問	2 問	2 問
総合・A(易)	5 問	3 問	5 問	4 問	3 問
総合・B(中)	1 問	2 問	1 問	2 問	0 問
総合・C(難)	0 問	1 問	0 問	0 問	3 問
目標点	74点／120点 (61.6%)	83点／128点 (64.8%)	88点／128点 (68.7%)	78点／112点 (70.0%)	74点／120点 (61.6%)

（注）目標点については、2023年第Ⅰ回までは「A問題の点数×90%＋B問題の点数×50%＋C問題の点数×10%」により、2023年第Ⅱ回は「A問題の点数×90%＋B問題の点数×**60%**＋C問題の点数×10%」は算出している（小数点第1位四捨五入）。

（注）近年は合格基準の上昇により、**正答率40%以上の問題（従来の難易度B）も6割程度正答**する必要がある。

3 難易度詳細

- ・難易度A：例題レベルの知識を理解できていれば確実に正答できる問題
- ・難易度B：問われている知識は基本的にテキスト例題のレベルであるが、テキストを少し応用した内容問われる、問題文が読み取りづらい、論点が多く集計が必要、間違えやすい引っ掛けがある等で正答しづらい問題
- ・難易度C：テキスト補論やテキストに記載のない知識が問われる、複雑な推定が必要、解答時間内では集計が難しいほど論点が多い等、正答できなくてもよい問題

4 学習の際に目標とするレベル

難易度 A を全問、B を 6 割正答できれば十分合格点を確保できるが、本番でのケアレスミスや近年の合格基準の上昇を考慮すると、難易度 A だけでなく B もほぼ全問正答できる状態を目指すのが望ましい。

5 難易度の見極めと解答戦略について

- ・合格点確保のために、難易度 A の問題を確実に正答することがまず大事である。
- ・しかし本試験において、短時間で各問毎の難易度の見極めを行うことは困難である。ぱっと見簡単だと思った問題が難しく、見たことないと思った問題が実は簡単であったということがあるためである。したがって、問題を数十秒程度見ただけで難易度を想定し、解く問題と解かない問題を定める解答戦略は、安定的に合格点を確保する上では**おすすめしない**。
- ・解答戦略は向き不向きがあるため、必ずこうすべきという方法は存在しないが、「難易度の高い問題に嵌まらず、得点できる問題に時間を使う」ことはどの方法でも意識すべきである。
- ・解答戦略の具体例としては、ひと通り頭から全問題を解き、各問題を解いている途中で、自分の持っている知識では明らかに解けないと判断した場合、もしくは、一定程度の時間（5～7 分）が経過した場合は次の問題に移り、全て解き終わってから再度解く。等があるが、合格者チューターや講師等に聞いてみてもよいだろう。
- ・本試験（2 時間）の解答戦略については、短答案練にて本格的に練習し、自分の得点が安定する方法を見つけてほしい。
- ・試験本番では、**自分が準備してきたものをすべて出し切ることを意識**すること。

6 2016年以降の計算問題出題実績 (総合問題除く)

2016年第Ⅰ回		2016年第Ⅱ回		2017年第Ⅰ回		2017年第Ⅱ回	
問題	内容	問題	内容	問題	内容	問題	内容
3	現金及び預金	3	現金及び預金	4	棚卸資産	2	本支店会計
6	社債	4	棚卸資産	5	有形固定資産	4	現金及び預金
7	資産除去債務	5	社債	7	資産除去債務	5	棚卸資産
10	建設業会計	10	1株当たり情報	9	建設業会計	6	有形固定資産
12	有価証券	12	貸倒引当金	11	有価証券	7	新株予約権付社債
13	ストック・オプション	13	ストック・オプション	13	ストック・オプション	10	特殊商品売買
15	リース取引	15	リース取引	15	リース取引	12	有価証券
16	退職給付会計	17	ソフトウェア	18	固定資産の減損	13	金融商品
18	四半期財務諸表	19	セグメント情報	20	事業分離	16	退職給付会計(連結)
19	外貨換算会計	22	ヘッジ会計	21	包括利益	17	連結財務諸表
21	企業結合					19	本支店会計
						22	セグメント情報

2018年第Ⅰ回		2018年第Ⅱ回		2019年第Ⅰ回		2019年第Ⅱ回	
問題	内容	問題	内容	問題	内容	問題	内容
3	本支店会計	2	伝票会計	2	手形取引	4	現金及び預金
5	現金及び預金	3	棚卸資産	4	有形固定資産	5	流動負債
6	特殊商品売買	4	有形固定資産	6	社債	6	社債
7	有形固定資産	6	資産除去債務	7	資産除去債務	7	無形固定資産
8	引当金	7	引当金	8	繰延資産	8	純資産の部
11	キャッシュ・フロー計算書	9	特殊商品売買	10	建設業会計	10	特殊商品売買
13	金融商品	10	株主資本等変動計算書	12	分配可能額	11	建設業会計
14	ストック・オプション	13	有価証券	14	新株予約権	12	貸倒引当金
15	リース取引	15	退職給付会計(連結)	16	退職給付会計	14	ストック・オプション
16	退職給付会計	16	退職給付会計	18	企業結合	15	リース取引
18	四半期財務諸表	17	ソフトウェア	22	固定資産の減損	18	外貨換算会計
19	連結財務諸表	20	外貨換算会計			19	包括利益
21	企業結合	21	企業結合			22	税効果会計

2020年第Ⅰ回		2020年第Ⅱ回		2021年	
問題	内容	問題	内容	問題	内容
2	流動資産	3	現金及び預金など	2	棚卸資産
3	有形固定資産	4	棚卸資産	3	資産除去債務など
6	資産除去債務	5	棚卸資産	5	販売用不動産
7	新株予約権付社債	6	賃貸等不動産	6	有形固定資産
8	純資産の部	8	株主資本等変動計算書	8	分配可能額
9	特殊商品売買	9	収益認識	11	有価証券
11	建設業会計	11	キャッシュ・フロー計算書	13	ストック・オプション
13	有価証券	12	貸倒引当金	14	リース取引
15	リース取引	14	リース取引	16	収益認識
16	退職給付会計	16	退職給付会計	17	ソフトウェア
17	固定資産の減損	17	税効果会計	18	固定資産の減損
18	ソフトウェア	20	連結財務諸表	21	税効果会計(連結)
21	事業分離	21	企業結合		

2022年第Ⅰ回		2022年第Ⅱ回		2023年第Ⅰ回		2023年第Ⅱ回	
問題	内容	問題	内容	問題	内容	問題	内容
3	現金預金	3	売掛金など	3	本支店会計	3	現金預金
4	本社工場会計	4	棚卸資産	4	流動資産合計	4	有価証券
5	有形固定資産	5	無形固定資産	5	現金預金	5	有形固定資産
6	繰延資産, 社債	6	流動負債	6	貸倒引当金	6	繰延資産
8	引当金, ソフトウェア	7	資産除去債務	10	会計上の変更, 誤謬	8	純資産(自己株式処分)
9	会計上の変更	11	個別CF計算書	12	有価証券	10	個別C/S
11	新株予約権付社債	12	貸倒引当金	14	建設協力金	13	リース会計
13	リース取引	13	ストック・オプション	16	ストック・オプション	15	退職給付会計
14	退職給付会計	15	収益認識	17	連結税効果等	16	収益認識
15	収益認識	16	退職給付会計	21	持分法, 税効果会計	18	株式移転(共通支配下)
17	税効果会計	18	外貨換算会計	23	企業結合	20	固定資産の減損
21	在外子会社, 包括利益	20	固定資産の減損			21	在外子会社, 包括利益
22	企業結合	21	研究開発とソフトウェア				

7 2016年以降の各論点の出題頻度（個別問題，計算）

（出題頻度高い）

現金及び預金，有価証券，外貨換算会計

棚卸資産（商品売買），有形固定資産，固定資産の減損，研究開発とソフトウェア

リース取引，資産除去債務，退職給付会計，ストック・オプション，収益認識

様々な論点を集めた集計問題（資産，負債，販管費等）

（出題頻度中程度）

無形固定資産，繰延資産，税効果会計，会計上の変更及び誤謬の訂正

建設業会計（収益認識），引当金，貸倒引当金，社債，純資産の部，新株予約権付社債

連結財務諸表（総合問題以外での出題），包括利益，退職給付会計(連結)

企業結合，キャッシュ・フロー計算書，本支店会計，金融商品

（出題頻度低い）

手形取引，特殊商品売買ヘッジ会計，賃貸等不動産，販売用不動産

四半期財務諸表，新株予約権，分配可能額，1株当たり情報

株主資本等変動計算書，セグメント情報，事業分離，伝票会計

【コメント】

- ・ 頻出論点とそうでない論点との出題回数の差が大きい。
- ・ 基礎マスター範囲からの出題が多く，上級範囲からの出題は少ない。
- ・ 出題頻度の高い問題はどのような内容にも対応できるよう準備し，出題頻度の低い論点は例題レベルの難易度A（＝合格する上で正答したい問題）は解けるようにするなど，メリハリをつけて広く対処することが合格可能性を上げるために重要である。

8 本講義の目的と内容（再掲）

- ・ 過去問題集の難易度「中」を中心としたアウトプット演習により，本試験で難易度「中」の問題を正答する力を養うことを主目的とする。
- ・ テキスト及び過去問集に掲載されている論点のうち，重要性の高いものを扱う予定である。
※出題可能性の低いものは除く。詳細は学習進度表を参照のこと。
- ・ 論点ごとに①出題内容の分析，②過去問演習及び解説，③必要に応じ知識のインプットや過去問以外の問題演習を行う。

9 学習方法



Step 1 知識(解法)のインプット

- ・覚えておくべき知識と会計処理を正確に覚える。
- ・よく使う解法(下書き:ワークシート, タイムテーブル等)を覚える。
- ・単に丸暗記していたり, 形で解法を覚えているだけでは, 正答できない類推問題や文章の理解を問う問題が出題されているため, 会計処理をしっかり理解すること。
- ・形で覚えているだけでは, 難易度Aの問題も解けない場合がある。
- ・理解とは「会計処理を言葉で説明」できればよく, 処理の理屈(なぜその処理をするか?)は計算問題を解く上では通常考える必要はない。
- ・解法を覚えるだけになってしまうような, 答練の複数回の解き直しはしてほしくない。
- ・何を間違えたか? 次間違えないためにどうするか? どんな勉強をしていれば試験の場で正答できてか?の分析を即座に行い, 考えた対策を実行すること大事である。(復習方法例は次ページ参照)
- ・知識のインプットは, 「問題文を見たときに, 正しい処理や, やるべきことが**すぐに頭に浮かぶ**」ところまで精度を高める必要がある。
- ・知識を覚えたがすぐに思い浮かばなかったり, 曖昧であったりする場合は, インプットが足りないため, 知識を整理したり, テキストを確認したり, 例題やトレーニングを解くことで, **すぐに頭に浮かぶ**ようになるまでインプットをすること。
- ・近年は解法だけでなく背景にある簡単な理論等も問われる傾向にある。(流動固定分類等)そのため, 解法のインプットが済んだら, テキストの例題の前の総論部分をざっと確認し, 会計処理の背景等を確認しておくといよい。



Step 2 アウトプット

- ・インプットした知識を使い、時間内に素早く正確に解答する力を養う。
- ① 問われているテーマを識別する。(どの論点が問われているか?)
- ② 問題文を理解し、引っ掛けポイントや解法が頭に浮かぶ。
- ③ 解答に必要な情報を効率的に拾い、ケアレスミスを防ぎながら、下書き作成、解答数値の算定を行う。
- ④ 上記①～③を時間内に行う。
- ・主にアクセス、答練、過去問にてアウトプット練習を行う。
- ・作問者によって問題の癖がでる(TACの問題にはTACの癖があり、本試験とは少し異なる)ので、過去問を解き本試験特有の傾向を知っておくことは非常に有意義である。
- ・繰り返しになるが、問題の解答や処理を覚えてしまうほど同じ問題を解きなさいようにすること。(覚えてしまった場合は、時間をあけてから解き直すこと。)
- ・毎回、問題文から状況を把握し、適切な会計処理を考え、解答を算定する、という流れを意識して解いてほしい。
- ・問題文をしっかりと読まずとも、昔解いた記憶で会計処理が思い浮かぶ状態は危険である。

10 復習方法

・問題を解いた後の復習の際は、各問題の論点、知識毎に自分がどの段階にいるか把握し、対策を立てること。

・インプット面

①知らない→②学習した記憶はあるが忘れた→③知っているが曖昧→④すぐに頭に浮かぶという段階のうち、各知識がどの段階にあるか整理し、①～③の知識を全て④にもっていく手段を考えること。(Web論点別講義を視聴、例題トレーニングを解き直す、付箋を貼って定期的に確認する等)※内容が曖昧な点が多い論点に関しては、トレーニングやトレーニング短答の解き直しが効果的であることが多い。

・アウトプット面

●時間が足りなかった場合

→各問題を解くのに何分かったかをざっくりとでも記録し、

どの問題に時間がかかってしまったかを洗い出して、対策を立てる。

例) 知識が瞬時にぱと思いつかず、時間がかかった(インプット不足)

: インプットを強化し、知識がすぐに思い浮かぶようにする

例) 問題文を隅々まで読み過ぎたことで、効率的に解けていなかった

: 各答練のVTR解説や講師の下書きを確認し、効率的に短い時間で解く参考にする

例) ある問題の答えがでず、10分程時間を使い他の問題を解く時間がなくなった

: 難易度「難」の可能性もあるので、1問あたりに時間をかけすぎないようにする

●問題文が読み取れなかった場合

→どう読み取れなければいけなかったかを解説で把握し、なぜ読み取れなかったか、

どうすれば読み取れるか考える

※アウトプット面は、各問題毎に様々な課題があることが多いため、質問コーナー等で実際に問題を持っていき、講師やチューターに相談することを勧める。